

# 走りやすい道路もデザイン

法律の制定などで景観への関心が急速に高まっているが、建設コンサルタント業界では比較的取り組みが早くて、1987年に景観デザイン室を設立した。2004年には、苫田大橋がグッドデザイン賞を受賞、成果もあがり始めている。

「デザインは機能である」。機能美ということではないとし、「走りやすい道路、事故が起きにくい道路はいいデザインである」と指摘する。デザインと言えば、すぐに色彩や装飾など見た目が頭に浮かぶが、もっと本

P  
I  
C  
K  
U  
P

質的なものという。

デザインを学ぶには、「歴史から入ると手っ取り早い」と説く。時代によって変化する価値観に淘汰（とうた）されることなく、いまでも見る人の心をとらえる世界遺産には、さまざまなヒントが散らばっているとも。海外旅行をしなくても、身近なところにお手本はあり、建築では、丹下健三の代々木体育館、道路は東京・原宿の表参道、大阪の御堂筋などを挙げる。良いものに接すれば、デザインについての引き出しが増えるとした。



松井 幹雄氏に聞く

大日本コンサルタンツ  
景観デザイン室長

成功したと思ったデザインは、大向こうをうならせるようなものではなく、意外にも普通

のもので、違和感なくその場所に馴染み、周囲と調和がとれていることが大切だという。

また、事業に携わった関係者の中で「これはわたしがやったものです」という人が多いことも、成功のバロメーターで、それは、さまざまな人の意見をうまく融合しているからと話す。

新たに景観をつくることも重要だが、一度破壊してしまえばもう二度と元には戻せないものもあり、いまある財産を損なうことなく、将来に引き継ぐことが大事と警鐘を鳴らした。

## 将来に財産継承を訴える